



6
された外壁や吟味されたラワンベニアの壁と、そこに規則正しく打ち込まれた真鍮の釘など、本庁舎には設計当時のレーモンド建築設計事務所らしいこだわりが随所に現れています。
また、家具・デザイナーとして日本の代表的存在であるレーモンド夫人(フエミ・レーモンド)の精神性を引き継いだ、レーモンド建築設計事務所オリジナルの家具も、庁舎内で保存・活用されています。
例えば、3階の議場にある傍聴席用の椅子や机の一部、また、2階の待合室にある円卓テーブルやソファなどは、オリジナルの家具を修繕し、保存・活用しているものです。



8
今回の改修では、文化的価値の保存・活用だけではなく、これまで不便を感じていた場所などの見直しも行いました。
例えば、「どこに行けばいいかわからない」という声に応えるため、庁舎入口には総合案内を設置。また、カウンターにはローカウンターを配置し、町民の皆さんが座ったまま、ワンストップで手続きが行えるようになりました。1階にはキッズスペースや授乳室を設置。



町民に優しく…



9
小さな子どもを連れての来庁でも安心です。さらに、エレベーターが設置されたため、これまで階段の昇降で苦勞されていた方にも気軽に3階まで上がっていただけるようになりました。
また、執務空間はオープンフロアとなり、これまで以上に見渡しがよく、圧迫感を感じさせない、明るい空間となりました。



庁舎外観の説明を受ける参加者

鬼北町再生庁舎見学会
「町のシンボルとして
新たな一歩を…」

2月21日、鬼北町役場本庁舎の改修工事が終了したことに伴い、再生庁舎見学会が行われ、町内外から約

これから愛される庁舎で
このように、現在の鬼北町役場本庁舎には、文化的価値と現代技術とが絶妙に融合されています。鬼北町役場に來られた際には、町産材のヒノキを使って建築された別館と併せて、ぜひこの建物の良さをじっくりと堪能してください。

100名が参加しました。
見学会では、東京工業大学名誉教授・藤岡洋保氏が「鬼北町庁舎の魅力探訪—リニューアルを終わって—」と題して記念講演を実施。「建物全体から文化的価値が見出せる。将来にわたってこの素晴らしさ伝えてほしい」と本庁舎の魅力力を力説しました。
講演後には、大学教授など専門家の説明とともに、参加者は庁舎内を見学。参加者は一つ一つの説明に真剣に耳を傾けながら、本庁舎の魅力を感じていました。

1 登録有形文化財の銘板 / 2 議場のHPシェル構造の屋根とステンドグラス / 3 本庁舎の特徴の一つであるスチールサッシュ / 4 1本の天然木を曲げた手すり。「折らずに曲げた」という当時の技術の高さがうかがえる / 5 人造石研ぎ出し床。現場で施工されたテラゾ床 / 6 議場の傍聴席。オリジナル家具の一つ / 7 総合案内窓口。すぐ案内が出来るよう入口の自動ドアそばに設置 / 8 ワンストップサービスを可能にするカウンター / 9 子ども連れには欠かせないキッズスペース / 10 明るい印象を与える執務空間